

お墓をキレイにしてみませんか？

令和時代のお墓の展望

新たな元号「令和」がはじまり、新しい時代が幕を開けました。そんな中でこれからのお墓はどうなっていくのでしょうか、近年のお墓事情から考えていきたいと思います。



～墓じまいは本当に必要なのか考えよう～

ここでも度々ふれていますが近年墓石業界で著しく増えている事はお墓を撤去する、いわゆる“墓じまい”です。

多くの方はのちにお墓を見る人がいなくなってしまう為に仕方なくお墓を撤去します。なぜなら管理する人がなくなったお墓は雑草が生い茂っていたり傾いたり倒れてしまったりして周りに迷惑をかけることになるからです。

またお墓は第三者が撤去することができないので墓地の管理者にも迷惑をかけることになります。

一方で今後も見る人がいるのに墓じまいを考えている人がいます。こういった方は「子、孫の代にお墓参りの負担をかけたくない」とおっしゃる方がほとんどです。

墓参りの負担とは何でしょう。私の聞いた中で多いのは「お墓が遠くにある」や「山の中や坂地などお参りしにくい所にある」や「お花をたくさんあげ

なくてはいけないので大変」などです。

テレビなどで墓じまいの特集をよく目にすることもあり、その影響がこれらの理由で墓じまいをする人が増えています。

しかし本当にそれは正解なのでしょうか、撤去するのは簡単ですが**一回壊してしまったお墓やお骨は戻ってきません**。遠くにあるお墓やお参りしにくい場所のお墓は行きやすい所に引っ越し、たくさんのお花をあげるのが大変な方はひとつにまとめて、なるべく負担をすくなくして次の代に受け継いでいきませんか？

安易に壊してしまうのではなく工夫して時代にあった形のお墓を残していく、そんな時代になってほしいと願っています。

令和時代のお墓の展望というより石材店の願望のようになってしまいましたが“令和”という時代、以前より和の心というのが重要視されてくるのではないのでしょうか。



有限会社 福井石材
代表取締役 福井 基紘

